

女性労働通信

発行 女性労働問題研究会 NO.60 2020/7/31

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F

(事務局) 株式会社 毎日学術フォーラム

Tel 03-6267-4550 Fax 03-6267-4555

E-mail maf-ssww@mynavi.jp HP <http://ssww.jp/>

<目次>

- ・代表あいさつ……………P1
- 「書面表決」のお知らせ
- ・第3回常任委員会報告…P2
- ・「会員名簿」2019年度版作成
- ・編集委員会報告……………P3
- ・第35回女性労働セミナー
- オンライン開催……………P4
- ・『女性労働研究』64号紹介

「Withコロナ」の発信方法を目指して

代表 竹信三恵子

「感染症とは、僕らのさまざまな関係を侵す病だ」。イタリアの作家、パオロ・ジオルダーノは、著書『コロナの時代の僕ら』（早川書房）の中で、このように簡潔に新型コロナウイルス感染の弊害を描き出しています。

感染防止のために人々は直接的な交流を断たれ、人間の本性ともいえる交流の場が失われつつあります。こうした中、私たちも今年度の総会や女性労働セミナーをどう実施すべきか悩み、6月研究例会は中止、9月20日に予定されていた総会は郵送による議決で代替し、オンライン方式による女性労働セミナーのみを同日に行うとの決断に至りました。

決断を促したのは、コロナ感染が拡大の一途をたどる中、予定していた会場が使用中止となったことでした。それならば、この機会を生かし、女性労働セミナーをオンライン方式とすることで多様な情報発信のノウハウを蓄積していこうと、発想を切り替えました。

テーマは、当初案の「フリーランスとジェンダー」を軸に、コロナの感染拡大が女性労働に与える影響を考えてみようということになりました。

政府が推進する「雇われない働き方」は、雇用者保護が必要な人々を「自営」扱いすることで雇用責任の外に置こうとする動きにつながりかねません。特に、フリーランスの働き方は、「自営」に新しい衣装をまとわせることで、家庭内無償労働と有償労働の二重負担を女性労働者に負わせる「装置」となる恐れがあります。

セクシャルハラスメント防止の動きも、こうした「装置」によって空洞化されるのではとの懸念も生じています。

9月の女性労働セミナーでは、コロナの感染拡大の中で、このようなフリーランスで働く女性たちがどのような困難に遭遇したのか、そうした女性たちの保護に、何が必要なのか、そのためにどのような労組やネットワークが必要なのか、という観点から検討してみたいと考えています。

「Withコロナ時代」の情報共有と発信の方法をつくり上げていくため、総会(書面表決)へのご参加と、皆さんからのご協力、ご意見、ご提言、ご質問を、よろしくお願いいたします。

▼お知らせ▼

2020年度SSWW総会は 「書面表決」にて実施します

非常事態宣言が解除されてから徐々に新型コロナウイルス感染拡大が広がっています。9月20日、立教大学で開催予定の女性労働セミナー&懇親会&総会は、大学が閉鎖されているために、借りることができなくなりました。他の会場を借りるにしても、3密等の制約や感染対策が求められていることから、やむなく、対面での総会は中止し、総会は「書面表決」(基準日は2020年9月20日)で行うこととしました。

総会議案及び「書面表決」はがきについては、8月末には会員の皆さまにお送りします。

よろしくお願いいたします。(総務・財政担当)



第3回常任委員会報告

2020年7月8日（水）14時～16時、かながわ県民センター708ミーティングルームで開催、5人全員（竹信・伊藤・小島・池田・佐久間）が参加、概要は次のとおりである。

【議題】

1 総務・財政から

①2019年度収支決算報告

総務・財政担当から報告。8月6日に会計監査を横浜において実施予定（鬼丸さん、木村さんと会計担当）。

②総会の開催方法・総会議案作成について

- ・総会は「書面表決」で行う。基準日は9月20日（総会予定日）とする。
- ・議案は事前配布（議案執筆を分担、締め切り7月末、議案の案は拡大常任委員会メンバーにメールで送り、意見をもらい。8月末に発送し、「書面表決」返信用はがきも同封する。
- ・「書面表決」文案を討議する。返信は、9月15日締め切りとする。

③『通信』60号の発行について

7月中に原稿締切、8月上旬発送（会員名簿、64号チラシ（すいれん舎作成））

④会員名簿は、70人の提出（70人/174人、提出率40%）となっている。情報が限られるが、発行する。通信60号と併せて発送する。

⑤メーリングリストの活用を促進

⑥入会者の承認

2 企画・編集から

- ・読者会・研究例会はコロナ感染拡大の影響で中止
- ・セミナーについて（企画、開催方法等）立教大学会場使用できず。セミナーはどうするか。他の会場を探して人数限定で実施又はオンライン講演で実施又は原稿のみを依頼し会誌に掲載するなど検討した。

か。他の会場を探して人数限定で実施又はオンライン講演で実施又は原稿のみを依頼し会誌に掲載するなど検討した。

9月20日（日）14時～16時30分にオンラインで第35回女性労働セミナーを「フリーランス」をテーマに実施する。

- ・第6回編集委員会アンケートのまとめについて報告。（P3編集委員会報告参照）
- ・『女性労働研究』65号企画の検討経過について報告（P3編集委員会報告参照）論文募集をML、HPで行った。
- ・読者拡大：購読会員を増やす。すいれん舎が朝日・毎日・赤旗に広告掲載反応はどうだったか。コロナ禍で販路（集会や学会）がない。
- ・新規購読会員の承認

（報告 小島）

スタッフ募集！！

SSWWの活動を充実させるために、企画編集委員補助スタッフ及び総務財政委員補助スタッフを募集します。

企画編集は、『女性労働研究』の企画編集、読書会・研究例会・女性労働セミナー等の企画運営等を行います。総務財政は、会計、『女性労働通信』の編集・発行、HP・MLの管理等の管理・運営を行います。

ご連絡、お待ちしております。



『会員名簿』2019年度版作成しました。

このたび8年ぶりに会員名簿を作成することができました。

昨年の12月にアンケートを実施したところですが、会員の4割の方からの提出にとどまりました。アンケートをいただいている方については、間違った情報の掲載となるので、お名前だけの掲載としました。

また、アンケートにお答えいただいた方については、可能な情報の掲載となりました。作成にあたって、情報の正確さには注意を払いましたが、不十分な点もあるかと思えます。提出後に掲載内容に間違いや変更等ありましたら、事務局まで連絡くださいますようお願いいたします。

この会員名簿は、会員相互の情報交換の場として活用するだけでなく、様々な職場や学園、地域等で御活躍されている方の貴重なスキルや経験を、会の活動に生かしていく貴重な資源でもあります。

次回発行するときは、掲載情報等の見直しを行い、充実させていきたいと考えます。よろしく申し上げます。

（総務・財政担当）

編集委員会報告

●第5回編集委員会

『女性労働通信』No.59 に掲載の通り、第5回編集委員会は、コロナ禍で集まることが出来ず、4月にアンケートで『女性労働研究』64号の総括を行いました。その結果を簡単にまとめると、次のようになります。

○会の「再出発」の最初の会誌で、今までの形式を受け継ぎ継続していく形をとったが、従来の内容と質的に遜色なく、研究会の水準が維持されることが感じられてよかったという意見が多かった。

○内容的にもく「働き方改革」と労働時間>は時期的によかった。法廷からの報告は解決後の方が掲載しやすいが、原告を応援する意味ではよかった。

○ニューズレター等で多くの会員に登場していただく方針はよかった。

○会員減・財政難のもとでの改革・再出発であったので、もっとシンプルな、費用のかからない「紀要」「年報」のような、出版社を通じないものという意見もある中で、継承に踏み切ったことがよかったかどうかは、まだ結論がでたとはいえない。編集委員会の仕事は大変であり、次号以降の担い手が大変である。しかし、次号は、執筆者にも執筆要綱、紙数、締め切りを守るという点で協力していただき、同じ方式で発行する。

●第6回編集委員会

第6回編集委員会も5月にアンケート方式で行い6月にまとめました。池田、伊藤、小林、首藤、鈴木、本間、橋本、鷲谷編集委員全員参加、主要議題は、『女性労働研究』65号の企画でした。

従来の形式を踏襲し、第35回女性労働セミナー（9月20日、オンライン方式）のテーマ「新型コロナと女性フリーランス～＜雇われない働き方＞のジェンダー分析」（仮題）とし特集とします。その他の内容は次のようになります。

巻頭：竹信三恵子、セミナー報告3名は決定、他に現場からの方向3名程度交渉中。

「マイストーリー」は研究者で依頼済み。

「トピックスと法廷から」は投稿1件あり、ほぼ決定。残り検討中。

「投稿論文」は募集中（ふるってご応募ください）。

「書評・読書案内」は現在情報収集中、「文化レビュー」は検討中。

「ニューズレター（地域・職場）」は、会員歴の長い方から若手会員までを掘り起し、執筆を依頼予定です。みなさま、積極的ご意見をお寄せ下さい。

以上

（報告：伊藤、池田）

『女性労働研究』第65号投稿論文募集

2021年3月発行の『女性労働研究』第65号に掲載する投稿論文を募集しています。

【投稿申込／投稿原稿送付先】

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル

毎日学術フォーラム内 女性労働問題研究会『女性労働研究』編集委員会宛

Tel 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555 Email maf-ssww@mynavi.jp

【問い合わせ先】池田 (rsb42435@nifty.com)

『女性労働研究』投稿規定

1. 投稿者は、原則として女性労働問題研究会の会員とする。なお、会員以外の方は、論文の応募の際に入会手続きをとることとする。
2. 投稿原稿の種類は、論文・研究ノートとする。
3. 投稿論文等は、未発表のものに限る。
4. 投稿論文・研究ノートは、査読（レフェリー）に基づく審査により編集委員会が採否を決定する。投稿論文の締め切りは、2020年8月31日（消印有効）とする。
5. 原稿の分量は、16,000字以内（図表を含む）とする。（字数厳守、超過している場合はそれをもって掲載不可とする場合がある。字数の換算方法は「女性労働研究執筆要領」をご覧ください。）
6. 投稿原稿は、女性労働問題研究会指定の「女性労働研究執筆要領」に基づいて執筆すること。なお、「女性労働研究執筆要領」は研究会のホームページ (<http://ssww.jp>) を参照されたい。
7. 掲載原稿は原則として1年間は転載を禁ずる。また、転載にあたっては事前に編集委員会の承諾を得ること。

応募用紙はHPからダウンロードしてください。

第35回 女性労働セミナー オンライン開催のお知らせ

日時:2020年9月20日(日)14時~16時30分 (途中入退席自由)

新型コロナウイルスの感染拡大が続いております。安全・安心を第一に今夏の女性労働セミナーはオンライン開催となります。

テーマは「新型コロナと女性フリーランス〈雇われない働き方〉のジェンダー分析」(仮題)。コロナ禍の中で見えてきたフリーランスという働き方について、実態報告・研究報告を通して考えます。

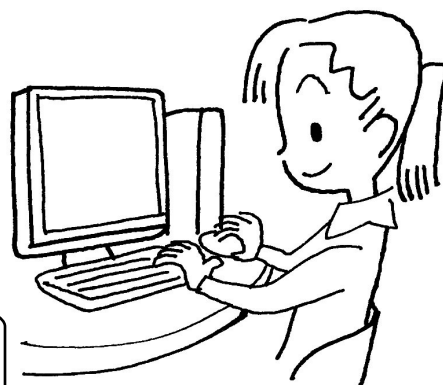
皆さまと対面討議し、和やかに交流する従来のセミナーは行えませんが、新スタイルのセミナーに挑戦します。多くの方の参加をお待ちしております。

【プログラム】

報告者(予定)

- ★杉村和美さん(出版ネッツ組合員・フリー編集者)
- ★森崎めぐみさん(協同組合日本俳優連合・国際事業部長)
- ★金井 郁さん(埼玉大学教員)
- ★竹信三恵子(ジャーナリスト・和光大学名誉教授)

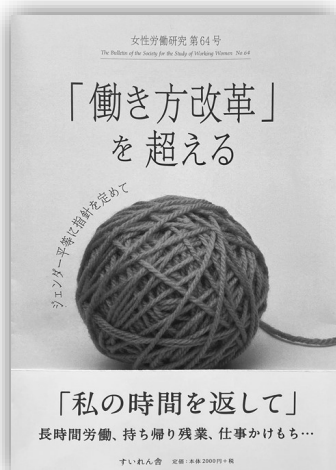
現場からの報告を3名程度交渉中



オンラインセミナーの詳細(プログラム、申し込み方法等)については、総会議案送付時にチラシでお知らせします。また、HPとメーリングリストでお知らせします。

『女性労働研究』第64号発売中

会誌の販売にご協力いただける方の連絡をお待ちしています。



発行日:2020年3月30日
 編集・発行:女性労働問題研究会
 発売:株式会社すいれん舎
 定価 2000円+税
 会員割引あります。

「働き方改革」を超える

—ジェンダー平等に指針を定めて—

(巻頭) 国家戦略としての働き方改革と女性労働 /中野 麻美

(特集) 女性の労働時間と「働き方改革」

○企業ファースト化する日本と女性の労働時間

—過労死のジェンダー分析への試論として— /竹信三恵子

○女性教職員の実態からみる教職員の長時間過密労働

/山本乃里子

○女性と副業—「仕事のかげもちアンケート」から見えてきた実態に関する分析—

/飯島 裕子

○ディーセントワークの実現にむけた賃金と労働時間の展望—SDGsとの関連で—

/中澤 秀一

(特別企画) 女性労働問題研究会創立70周年

○女性労働問題研究会70周年特別企画に寄せて

/橋本 宏子 伊藤 セツ

○女性労働問題研究会年表

○『女性労働研究』総目次 No.40~No.50

【編集後記】新型コロナウイルスの感染拡大によりこんなにも日常や働き方を変えてしまうとは。いままでに勝ち取ってきた様々な権利を後退させない運動をしていくことが必要と思う。(通信企画編集担当)